

平成22年3月31日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007年度～2009年度

課題番号：19730120

研究課題名（和文） 地方分権化時代における西アフリカの地方政治の変化と課題

研究課題名（英文） Change of local politics in Decentralization in West Africa

研究代表者

岩田 拓夫（IWATA TAKUO）

宮崎大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：60375384

研究成果の概要（和文）： 地方分権化がアフリカの地方政治にいかなる変化や課題をもたらしているのかを明らかにするだけでなく、最終的には我が国の対アフリカ外交・援助政策に対する政策的な提言を行うことを目的として研究活動を遂行した。本研究では、選挙と国際協力の観点から分権化のアフリカ政治に対する影響を考察した。研究助成期間の研究成果として、8件の学術論文、4件の学会報告を発表した上で、最終的な取りまとめとして著書を刊行した。

研究成果の概要（英文）： This research project tried to understand how decentralization has changed local politics in Africa. This study also aims to realize the advocacy for aid and diplomatic policy of Japan. This research has focused on the election and the international cooperation among local governments in order to analyze the impact of decentralization on African politics and cooperation. From 2007 to 2010, this project produced 8 articles, 4 presentations in academic association, realized publication of a book to show the final result of the research.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	600,000	3,700,000

研究分野： 政治学

科研費の分科・細目： 政治学

キーワード： アフリカ、地方分権化、民主化、選挙、自治体間国際協力

1. 研究開始当初の背景

従来のアフリカの分権化研究では、行政面を中心とするガバナンス改革のための援助政策として注目され、開発の「手段」として認識される側面が強かった。

しかし、アフリカにおける分権化は政治改革そのものであり、政治的影響に関する分析なくしてアフリカの分権化を十分に理解することは難しいという認識が芽生えつつあった。

このような研究状況において、本研究では、アフリカにおいて地方分権化が与える政治的影響に焦点を当てた研究を実施することとした。中でも、「選挙」と自治体間の直接の国際協力である「地方分権型国際協力」に注目して研究を開始した。

2. 研究の目的

地方分権化がアフリカの地方政治にどのような変化や課題をもたらしているのかを明らかにし、最終的には実際の援助政策に対する政策的な提言を行うことを目的としている。

3. 研究の方法

西アフリカ諸国の分権化改革の沿革を整理し、分権化による地方自治体の政治的・行政的ガバナンスに与える好影響と課題を明確にし、比較研究を実施するための理論的・実証的研究を行った。

西アフリカのベナン、ブルキナファソ、マリ共和国において、計6度に及ぶ現地調査を

実施した。そのうち、ブルキナファソ、マリ共和国からの招待を受けて、自治体間国際協力の大会に出席し、関係機関、日本大使館と意見交換を行うことを通じて研究成果の政策的還元も試みた。

4. 研究成果

研究助成機関の研究成果として、8件の学術論文（うち1件は査読有学会誌）、4件の学会報告の形で成果を公表した。

そして、本研究の最終的な取りまとめとして、著書（単著『アフリカの地方分権化と政治変容』）を刊行した。

著書は当初の計画通り、我が国の外交・援助政策への政策提言として還元するため、外務省、JICA、総務省、農水省、国会議員、県会議員（宮崎県）に提供し、それをもとに情報提供や意見交換を行った。

5. 主な発表論文等

（全て研究代表者による単独発表）

【著書】

1. 『アフリカの地方分権化と政治変容』晃洋書房、2010年、全182頁。

【論文】

2. 「アフリカにおける地方分権化と選挙—ベナンの大統領・国民議会・地方選挙の考察を通じて—」『国際政治』（日本国際政治学会）第159号、2010年、101-115頁。【査読有】

3. 「マリにおける地方分権化の政治的影響」『社会科学研究年報』龍谷大学社会科学研究所

所第 39 号、2009 年、37-52 頁。

4. 「国際協力における地方自治体の役割と課題—日本とフランスの比較研究を通じて—」

『宮崎大学教育文化学部紀要 (社会科学)』

第 20 号、2009 年、1-15 頁。

5. 「アフリカにおける地方自治体の国際協力の展開と課題—ブルキナファソの事例から—」

『宮崎大学教育文化学部紀要 (社会科学)』

第 20 号、2009 年、17-30 頁。

6. 「アフリカの革命政権再考—トマ・サンカラが遺したもの—」

『宮崎大学教育文化学部紀要 (社会科学)』

2008 年、1-23 頁。

7. 「アフリカの地方分権化と民主化—2006 年ベナン大統領選挙をめぐって—」

『宮崎大学教育文化学部紀要 (社会科学)』

第 18 号、2008 年、41-56 頁。

8. 「アフリカ市民社会の定義」

『アフリカにおける市民社会の役割と市民社会強化支援の現状と展望』

(国際協力機構客員研究員報告書)、2007 年、10-18 頁。

9. 「植民地境界線画定問題とトーゴ人の政治的アイデンティティ形成」

『アフラシア研究 No. 1』

(龍谷大学アフラシア平和開発研究センター) 2007 年、1-25 頁。

【学会発表】

10. 「アフリカの民主化と選挙」

日本アフリカ学会、2009 年 5 月 23 日、東京農業大学。

11. 「アフリカにおけるポピュリズムの現代的意義」

日本比較政治学会、2008 年 6 月 21 日、慶応大学。

12. 「アフリカにおける地方分権型国際協力の現状と課題」

日本アフリカ学会、2008 年 5 月 24 日、龍谷大学。

10. 「アフリカの革命再考」

日本アフリカ学会、2007 年 5 月 27 日、長崎ブリックホール。

[雑誌論文] (計 8 件)

[学会発表] (計 4 件)

[図書] (計 1 件)

[その他]

ホームページ等

◆宮崎大学 HP

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/uom/modules/bulletin01/index.php?page=article&storyid=29>

◆宮崎大学教育文化学部 HP

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/educul/educul.html/topics/iwatasintyo.pdf>

◆個人 HP

<http://www.geocities.jp/kodjovi23/page003.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩田 拓夫 (IWATA TAKUO)

宮崎大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：60375384

(2)研究分担者： なし

(3)連携研究者：

Mouftaou Laleyé (ベナン共和国国民議会附属政治経済研究所所長)

Mathias Hounkpé (ベナン共和国国民議会附属政治経済研究所研究員)

Emmanuel Ahlinvi (パラク大学講師)